

# 技術士だより

(社) 日本技術士会九州支部・九州技術士センター冬季号<第70号>(平成19年1月15日発行)

## 巻頭言

### 技術士のあるべき姿

九州支部支部長 光岡 毅  
(建設・福岡)



平成19年の新しい年を向かえ一言ご挨拶申し上げます。技術士法は昭和32年法律第124号として制定され本年で50年を迎えることになりました。記念すべき年であります。この機会に技術士のあるべき姿を考え、技術士が、今後、社会、技術界、企業に大いに貢献出来る方向に向かっていかなければなりません。

幸いにして、平成16年6月に策定された技術士会の技術士ビジョン21及び平成17年度に文部科学省で作成された第3期科学技術基本計画が先導し方向を示唆しています。

<コンサルタントエンジニアからプロフェッショナルエンジニアへ>

技術士法制定以来技術士の資格は、コンサルタントエンジニアとして高度の技術力を持ったいわゆる功なり名遂げた技術者に与えられた勲章のような資格でありました。しかし、平成12年技術士法が改正され、技術士はプロフェッショナルエンジニアとして働く技術士へと考え方が一挙に変わってきました。

技術士会は、経営と技術の両面を対象に企業家に知恵を販売し、その見返りに報酬を得るコンサルタント・エンジニア業という形で発足したもので、経営コンサルタントと同じように技術の現場に乗り込んでいって指導するということでした。しかし、一部上場している企業はその必要性を認めていません。中小企業にはコンサルタントできますが、中小企業診断士がむしろ活躍しています。

これまでの技術士コンサルティングの考え方が、技術士の社会への知名度が広がって行かなかった原因であったのではと思います。

現状をみると、技術士の現役は、そのほとんどが、企業の中で原動力となって働いている人たちのなです。つまり、プロフェッショナルエンジニアです、法律の改定は的を得ているのではないのでしょうか。

<企業にとっての技術士>

新しい法律の下、新しい試験制度で若い技術士が多く生まれてきました、そしてそれらの若い技術士が企業を中心部で活躍しています。しかしながら、建設分野では、これまで比較的多くの技術士の活躍が見られますが、製造業等ではまだまだわずかでこれからです。

これら技術士は、プロフェッショナルエンジニアといいますが、決して専門馬鹿で、狭い視野の技術者ではありません。深い専門知識は勿論、科学技術一般及び周辺産業の知識を持ち、その上守秘義務と強い倫理観を持った技術者たちです、合格率10%の難関試験の洗礼を受けたものばかりです。

技術士なら、昨今マスコミを騒がせている企業の不祥事、リコールやPL法違反等の芽はあらかじめ摘み取ってしまう能力を持ち合わせています。技術士を多く抱える企業は、きっと、社会、投資家から高い評価を受けるものと考えています。

<若手技術者の技術士会の活動を>

これまで、定年後の技術士が主として技術士会を運営して技術士の世話をしていましたが、もっと若手技術士が会の方向の舵取りを行う時代になってほしい。

企業にお願いしたいのは、若い技術士を会社の中だけの活躍でなく技術士会で活動していただく人を出していただきたいと思います。

また、中堅の人や若い人が企業の外で活動することが、他の企業、他の分野の人との交流をすることが企業にとって重要であることを感じて頂きたい。

# 便利さゆえに失っているもの



熊本支部 加来 雄一  
(建設・総合技術監理)

技術士の仲間に中村君がいる。彼が執筆した清正時代の石堰の調査報告書に現場でのスケッチ図が描かれていた。そのスケッチ図を見ながらいたく感心した。数本の線で、なんと的確に石橋を表現しているのだろうか。昔懐かしい、手造りの歴史ある、石橋を物の見事に表現している。写真でも表現できないものがそのスケッチから読みとることが出来る。

海外の旅先でよくスケッチブックを片手に持ち運び、立ち止まり描いている人に同行する事がある。ただシャッターを切る私と違って、その印象を描きとめ、絵として残せるなんて、なんてすばらしい特技の持ち主かと感心してきた。線絵の魅力は描写する物、そのものだけでなく描く人の息づかい、人柄、温もり、が伝わってくる魅力が有るからであろうか。写真では現されない魅力がある。

筆無精の私にも、これらの表現ができないものかとの一念で、先日、肉筆画の入門書を開いてみた。その中に描くコツとして一番中心、芯を中心に書くことであると記されている。一枚の葉っぱを描くとき、幹の付け根から枝葉、葉脈へと描き、中心からその外へ外へと描きなさいと記されている。たしかにその通り進めると私の今までのスケッチは見られないバランスのよい絵が描けている。これまでの私の描き方は適当に、外郭から描きバランスをはじめ、其の本質、ポイントを捉えきれない物になっていたのだ。よく考えてみると、行動の過程においてははじめは勢いが込められて物の本質を捉え易いが、あとではダレるもので、どうしても良い枝葉末節は後で適当に流しても表すことが出来るみたいで、一つの真実がそこにはあるようだ。

肉筆の良いところは、表現の中に、作者の息づかいがそこから読みとることが出来る。

その例として、文豪の加筆を何回もした原稿用紙

を拝見すると苦勞の経過を読みとる事が出来る。ここからは、完成までの経緯、思考の過程をかいま見ることができる。最近の文筆家の中にはパソコンで原稿を書く人がいるようだが、原稿をどうして残しているのだろうか聞いて見たい物である。

またセピア色の肉筆の古文書を見、読むときここからは作者の伝えたい事柄だけでなく、様々な時代背景を捉えることが出来る。

私たち技術者にとっても図面はことば以上に表現手段としては重要である。われわれ技術者も昔は自筆の図面を書いていた。線の一つ、字体の一つにしても心を込め書いたものだ。

しかし最近は自筆の図面は殆どがキャド図やパソコンに置き換わってきている。キャドは一端その便利さを享受すればその利便さは捨てがたい。早くて、綺麗、なによりもコピーが容易で、新たな図面作成も類似した前例の一部修正で事足りるからである。パソコンの普及もまったくこれと同じである。世の中便利になっていくのに技術者として決して否定するつもりは無い。

しかしその便利さ、安易さから無くし、失って行っているものも少なくない。

文明の利器であるキャドやパソコンでは設計者としてその真意、心意気等、最も伝えたい重要な物が伝えられないものがある。また読みとって貰えないもの、作意の全部が伝わらない場合もどかしさも生じている。

もっと自筆の図面とか表現方法を工夫して自分なりのオリジナルな表現方法を考える事も大事である。

キャドやワープロに依存している私たち技術者、便利さゆえに失っているものが有るようで一考させられる。

## 理事会報告

理事・九州支部副支部長 是永 逸生  
(総合技術監理・機械/北九州)



前号では7月に開催された平成18年度第2回理事会までを報告しました。本号では9月に開催された平成18年度第3回理事会と11月に開催された平成18年度第4回理事会の概要を報告します。

### 報告1 平成18年度第3回理事会 (開催日時: 平成18年9月21日 13:00~17:30)

第3回理事会は9月21日に開催されましたが、既に議事録は九州支部ホームページおよび月刊「技術士」11月号にも掲載されています。又、継続検討事項は11月度理事会でも審議されていますので重複しないように報告をいたします。

#### (審議事項)

#### 1. 支部長・部会長会議等の位置づけ検討に伴う規定変更

支部長会議は本会の重要施策の円滑実施および支部活動の活性化を目的として年4回開催する。部会長会議は部会相互の連絡協調、重要施策の円滑実施、部会活動の活性化をねらって、年4回開催する。常設委員長会議は「組織・制度改革本部」の機能を引き継ぎ、本会重要施策の実施を期して、会長が招集する。

#### 2. 実行委員会設置、委員の任期、役員選挙規定変更等の項目は継続検討中

#### (報告事項)

#### 1. 技術士法施行50周年記念事業について

本事業を開催して、改めて技術士・技術士法の意義を論議し、今後の技術士のあり方を探るとともに、技術士法改善点等について提案する。同時に技術士について社会的に広報する機会とする。

実施メインテーマ:「技術士について考える一過去・現在・将来—技術士法制定50周年記念—」

- (1) 実施方法: シンポジウム等を支部・部会で実施後、本部で総括的シンポジウムを実施
- (2) 開催期間: 2006. 9から2007. 9で支部、部会、本部で取り纏める。
- (3) 支部、部会の企画案が纏まり次第、本部事務局へ提出 (期限: 最終的に12月8日)

#### 2. CPD 参加票様式の統一について

CPD 行事にて配布される参加証などの様式を統一する。CPD 実施記録として活用できる。

#### 3. 常設委員会報告

政策委員会: 技術士会シンボルマーク公募、技術士プロフェッションの宣言内容を検討中、代議員制度検討中 (11月理事会付議を目標)

広報委員会: 日刊工業新聞で技術士の執筆コーナー開設した; 週1回、6ヶ月間、1回当りの文字数1100字、原稿料謝金1万円/回

国際特別委員会: APEC エンジニア新規登録申請に推薦人2名が必要となった (第14回分以降)

会員拡大・技術士活性化推進特別委員会: ①「第3期科学技術基本計画」の推進施策を文科省へ説明した。② JABEE 修了者への支援体制を検討中 (本人の了解、大学から入手、企業内技術士)。③ 会員拡大と技術士活性化の戦略を取り纏め

### 報告2 平成18年度第4回理事会 (開催日時: 平成18年11月16日 13:00~17:00)

#### (審議事項)

#### 1. 役員選挙管理規則の変更

① 選挙管理委員会からの要請で、月間「技術士」への候補者による投稿および記名記事の掲載する期間を制約することを明文化 (選挙実施年の3, 4, 5月の掲載禁止)

② 役員選挙管理委員の定数に関して、30名以上の部会員の部会から理事立候補が可能であり選挙管理委員も推薦可能となった。

③ 役員選挙管理委員は今回改めて委嘱する。九州支部から藤永正弘 (建設/副支部長) 先生

#### 2. 技術士プロフェッション宣言

技術士自身のステータスを自らが明確にするとともに社会に対して働きかけるための宣言であり、政策委員会で立案中である。

H19年新年の年頭挨拶、月刊『技術士』巻頭言に掲載する。

宣言者が (社) 日本技術士会であることを明らか

にして、現在の会員および資格保有者で未加入者の双方に働きかける形にする。

《技術士プロフェッション宣言》に加えて枠外に「プロフェッションの概念」「技術士の行動原則」を記す。

### 3. EMF エンジニア・モニタリング委員会設置

EMF 国際エンジニア (IntPE) は APEC エンジニアと平行して EC の英語圏も含めた技術士資格制度であり、技術分野はない。APEC エンジニアが技術士全部門を対象として登録可能となったことから、APEC エンジニアは EMF エンジニアにも登録できることとなった。日本技術士会で登録業務を開始する。

### 4. 防災支援委員会委員の委嘱

「防災特別委員会」は H18.11.30 で終了し、事業委員会の下で実行委員会「防災支援委員会」として改組、九州支部委員：三浦哲彦（建設／総監）先生を改めて委嘱。

全国規模で防災関係者ネットワークを構築。東京都と「復興街づくり支援協定」を締結。

### 5. 退会者

定款10条による2年間会費未納者の退会47名、退会防止の為の施策が必要

#### 《報告事項》

#### 1. 代議員製導入検討（第3回中間報告）

前期から引継事項であり、会員拡大、明確な意思把握の為に機能分担を図るものである。

（検討素案）①代議員数：200～250名、②構成：役員と代議員、③機能：本会の基本運営事項、④代議員会運営：過半数成立、書面表決方式、出席交通費支給せず。

（選出方法）①会員による選挙、②任期2年、再任

3期、③選挙区：地域・部会要素考慮、④立候補：制限なし、推薦者10名

（スケジュール）H20年又はH21年総会決定し同年秋季に選挙の予定。

### 2. H18年度第二次試験結果

申込者数：31499名、筆記試験受験者数：19674名  
筆記試験合格者3511名、一般2613名（16.6%）、総監898名（22.7%）

試験問題の出題ミスなし

### 3. プロジェクトチームの設置

「環境負荷低減の検証研究会」九州支部・北九州地区技術士の提案で、設置承認済み。

### 4. 常設委員会報告

**政策委員会**：代議員制、プロフェッション宣言に関する意見募集（本部事務局宛）、地域組織のあり方：関東甲信地区を区別して検討中

**事業委員会**：①H19年度事業計画：計画案策定中、事業計画12月初旬にヒアリング予定。

②CPD 認定会員490名、認定会員制度活用の為、技術士 CPD 監査を実施する（時期4月）

**報酬委員会**：修習技術者指導に関する標準報酬に関しては現時点で標準値を決めるほど具体的な事例が発生していないとの判断で検討は先送りする。

**会員拡大・技術士活性化推進特別委員会**：会員拡大目標は今年度も3000人増とする。

退会者防止施策の検討（会費未納、支部・部会活動の活発度評価）、企業内技術士会との連携強化

### 5. 会員準会員等の推移

H18年9月末現在 会員11,852名 準会員3,111名  
合計14,808名

7月、8月の入退会数（会員）入会162名、退会50名

## 政策委員会（概要）報告

政策委員会 委員 小出 剛  
（農業・福岡）



### I. 主な経過

本委員会では、先の『技術士ビジョン21』に基づいて決定した『組織・制度改革への行動指針』を受け、①基本事業検討 ②代議員制度検討 ③地域組織検討 ④定款等諸規定検討の四つの小委員会を立ち上

げ、これまで、委員会の前後に小委員会（2時間）を毎回開催し、その結果を本委員会（約4時間）に持ち寄って、全員で審議しています。

第1～12回までの政策委員会については、これまでの会誌で報告済みに付き、今回は第13～16回委員



会を一括して、その概要を報告いたします。

なお、開催された小委員会と本委員会は次の日時でした。

1. 第13回 8月3日 11時～18時（昼食時を除く）
2. 第14回 9月8日 同上
3. 第15回 9月27日 10時～19時（昼食時を除く）
4. 第16回 10月26日 11時～18時（昼食時を除く）

## II. 委員会の概要

### 1. 委員長より四役会議等の報告

(1) 日本技術士会のCPDとPDE協議会と連携PDE（Professional Development of Engineers）協議会と連携をとりつつ、技術士会の守備範囲をクリアにして社会にアピールするものとしていく。課題として、「ポータルサイト」、「記録の自己責任と証明」、「講座のフレームワーク」、「倫理」、「他のCPDとの連携」等があり、政策委員会が方向付けをし、纏めを事業委員会と分担して行う。

(2) 北陸支部長等から、“名誉会員規則で、「77歳以上、特定の役職の経験、100点以上」という条件は厳しすぎるので、再検討して欲しい”と要望があった。四役会議では、倫理委員会に検討して頂く事となった。

### 2. 本委員会での質疑

#### 1) 基本事業検討小委員会（岩熊小委員長）

(1) プロフェッション宣言

「技術士がプロフェッションとして一人一人が行動原則を実行し、技術士組織の下で、技術士の称号を貶めることなく社会的地位を確立し、向上させ、社会に対して大きく貢献する事で、高い信頼を得ることを目指す」を目的として、宣言文の骨子検討・案文作成・政策委員会審議・理事会の順で理事会を通過。月間技術士19年1月号の表紙裏に正式に宣言文として掲載予定。この宣言文は、内部での規範とする事は勿論、外部に向けて「技術士とは何をする人か」について発信する事を強く意識した。審議段階では、「分かり易く」「簡潔に」「読みやすく」を主眼に置くよう主張したが、会員各位の満足範囲到達までには、今後の改訂も必要かと思われる。

(2) シンボルマーク公募

10月末時点で、12点の応募あり、11月・月刊技術士で再公募、11月末日締切り。

#### 2) 代議員制度検討小委員会（春田小委員長）

(1) 代議員制導入に関わる検討（11月理事会に中間報告）（理事会報告を参照）

- ①代議員制度導入の目的・必要性
- ②代議員制度導入に当たったの留意事項
- ③代議員制度（案）
  - ・制度全体の概要とその検討経過

- ・代議員会の運営とその検討経過
- ・代議員会の選出方法とその検討経過

④ 役員と代議員の同時選挙運営のイメージ

⑤実施時期については、今年度末総会に上程の予定であったが、時期尚早の環境条件により、1～2年程度遅れる予想。

### 3) 地域組織検討小委員会（高橋小委員長）

(1) 検討・審議の経過

①関東甲信地域を先行して検討してきたが、現在は支部管轄下の県等組織も同時に検討している。

②支部長会議で、「支部」という呼称は残して欲しいという要望が強かったため、それを踏まえて検討している（支部出身の委員も強く主張）。

③単純には、日本技術士会〇〇支部△△県技術士会という名称にすべきところ、呼び方が一般的であるか、既得権あるいは商標権の関係で問題ないかの検討も必要との事。

④関東甲信地域の県技術士会との協議に関しては理事会承認を得たので、第2回目の政策委員会との会合を11～12月の間に開催の予定。

### 4) 定款等諸規程検討小委員会（安田小委員長）

(1) 委員会に関わる規則検討の経緯

現在、日本技術士会に設置されている委員会の区分は常設委員会、実行委員会、調査委員会、及び特別委員会であり、実行委員会は常設委員会の下部委員会の扱いとなっている。調査委員会には現在「地球環境調査委員会」のみで、その活動実態を勘案するとプロジェクトチームとして対応すべきとの意見が強いが、特別委員会との合体で、新たな「特別委員会」とする案が出ている。このような状況下で、政策委員会においては、当該規則には以下の諸点の問題があることを確認し、先行して検討している。

（問題点と検討事項）

- ①委員会の全体の体系化が不明確（細則上、実行委員会に関する規定が少ない）
- ②細則上の委員会に関する規定が分かりづらい。
- ③各委員会（常設、実行、調査）に関わる規程間で整合性に乏しい。
- ④特別委員会に関する通則がない。
- ⑤常設委員会とその関連する実行委員会との連携を規定上明確にする必要がある。
- ⑥「国際協力」「若手技術者の育成」「CPD」「公益法人の問題」などが重要となる。それらを含めて委員会のあり方を検討すべきである。
- ⑦「技術士ビジョン21」の作成後に、公益法人制度改革が具体化したため、総合的な見直しを図る必要がある。

（その他 省略）

# 平成18年度第2回支部長会議報告

九州支部長 光岡 毅（建設・福岡）

支部長会議は、年に3回行われます。支部は、関東地方にはありません。したがって、北海道、東北、北陸、中部、近畿、中・四国及び当九州の7支部です。そして、議長は支部の持ち回りです。支部長会議には必ず会長、副会長、専務理事、常務理事が出席します。

今回は、本年度第2回で中・四国が当番で、また、年に1回の地方で行うことで、会議は9月28日（木）松山市で行われました。次回は12月4日本部会議室で九州支部が当番で行われます。

支部長会議は、当初本部に対し物申すということから発足したのですが、本部からの伝達事項、及び各支部の懸案事項の相談のような案件が多いように見受けられます。

本部からの連絡事項のほとんどが理事会、政策委員会およびその他の常設・特別委員会での審議事項の報告であり、理事会、政策委員会での事項は当支部からは是永理事、小出委員が出席していますので、そちらからの報告があるので、ここでは、主なものの項目だけ掲げその内容は省略します。

1. 部門及び部会のあり方について中間報告
  2. 理事選挙方式の検討結果及び役員選挙関連規則整備
  3. 支部長・部会長等の位置づけの規定変更
  4. 代議員制度導入に関わる検討の中間報告
  5. 四役会議の運用について
  6. 地域組織のあり方についての検討状況
  7. CPD参加様式の統一化について、九州支部では10月のCPDから実施
  8. 技術士法制定50周年記念事業について
- 次に、支部長会議議題にしたがって進めますと

## 【本部】

1. 支部経理処理と平成19年度予算書の作成について

支部の会計処理については、平成13年度に本部が公認会計士の監査を受けたとき本部・支部の経理処理の統一化を図るよう指摘を受けていました。

さらに、新公益法人会計規定の改定もあり、平成

19年度予算から本部・支部の連結決算を行うべく方針を固めました。既に、本年度の支部の支出については本部が定めた会計事務所に報告して会計処理をおこなっています。会計勘定項目の統一など必要な事項について指導を受け疎漏の無いよう進めることになりました。

2. 日刊工業新聞における“技術士の執筆コーナー”の設置について

日刊工業新聞社と調整を図っていたところ、平成18年10月4日（水）から毎週水曜日に技術士執筆コーナーの設置の話がまとまり、当面6ヶ月間でできれば1年間継続したいととの連絡があった。基本テーマは①技術②ものづくり③中小企業を3本の柱とし、具体的な現場に密着した相談や指導改善事例などとしたものということです。

以下、各支部の報告等

## 【北海道支部】

1. 支部・センターの統合に向けて

年度内に支部、センター総会を開催しセンターを解散、支部・センターを統合する。現在のセンター会員を協賛会員として当面活動を行う。協賛会員は支部役員、常設委員会に委員、研究会の代表にはなれないが、地方技術士会の活動には自由に参加できる。という考え方で実施に向けて進んでいます。

2. 第9回北東3支部技術士交流会を実施した

10月13日（金）ホテルポールスター札幌において、北東3支部（北海道、東北及び北陸）の支部会員による交流会を実施した。テーマは「高齢化社会の問題と対策」について、近況報告、基調報告および6篇の研究発表が行われた。

## 【東北支部】

宮城県技術士会の活動について、本部で検討中の地方組織のあり方と同様支部との位置づけについての報告

## 【北陸支部】

名誉会員規則が改定され、地方の正会員にとってきわめて不利になった。また、地方では切り捨てられた会員にとって、これまでの継続性が失われたこ

とに会員の不満が生じている。再改正を望む。

#### 【中部支部】

J A B E Eで卒業予定の大学学生に対し支部説明会を開催。

技術士法施行50周年記念行事の先取りを行っている。

#### 【近畿支部】

近畿支部では企業の協賛会員を採っていない。各支部ではこの辺どういう事情であるのか、また本部の考え方を聞きたい。

全国的に活動していない企業はすべて本部の協賛会員というわけにはならないので、地方にもあってよいのではないか。

#### 【中・四国支部】

支部会員の増強はなかなか難しい。特に、県組織の会員を支部会員に円滑に移行したい。

C P Dについて、本部で実施したC P Dの内容をW E Bで配信できないか、本部実施講演会等の講師紹介、本部からの謝礼支援。J A B E E認定過程卒業生への連絡網が必要。

#### 【九州支部】

事務局採用を支部で出来るようになった。

支部と会員との連絡網についてメール、F A X、郵送の3様で実施しているが各支部の実態は。ホームページの管理に手間が掛かるが各支部の状況。

よく似た状況であることがわかった。

## 行事・会合報告

### 第26回地域産官学と技術士の合同セミナー（福岡）報告



総務委員長 中村 勲  
(建設、総合技術監理・福岡)

#### 1 はじめに

九州は台風の通り道で毎年のように大きな風・水害を蒙っています。今年も台風13号等により九州南部に豪雨災害が生じました。昨年、福岡には地震がないと言われていたところ、福岡県西方沖地震が発生しています。一方で有明海・不知火海では、経済活動の進展等で時代の流れとともに、海を取り巻く環境面にもさまざまな変化が生じています。

今回、九州・福岡で開催された合同セミナーのテーマは、地域の特性を取り込み、「九州における災害社会環境を考える」に設定しました。セミナーは



主催者挨拶 都丸会長

平成18年11月24日、福岡建設会館にて参加者160名により、九州支部光岡支部長の開会の辞、主催者として（社）日本技術士会都丸会長の挨拶、そしてご来賓として九州地方整備局の芦田義則企画部長にご挨拶いただき開会しました。



来賓挨拶 芦田 義則氏

#### 2 基調講演「九州における最近の自然災害と対応」九州地方整備局企画部 環境調整官 野村 正之氏

基調講演の主旨としては①近年の気象状況を踏まえ、平成17年・台風14号及び平成18年・梅雨と7月

豪雨に伴う被害状況とその対応、②災害対策の体制を再確認した上で、関係する機関の連携が大切であることを、九州地方整備局が行っている活動事例、③九州地整だけでなく、国全体として改善を図っていくべき方向について説明されました。



基調講演 野村 正之氏

### 3 パネルディスカッション「自然災害と環境変化にどう対応するか」

#### 1) 異常気象の中での農業 九州大学教授 真木 太一氏

この100年間で日本を含め世界的に見ても0.75～1.0度Cの気温上昇が見られた。この原因は大気中の二酸化炭素濃度の増加と考えられる。又、近年は異常な高温と低温及び並びに多雨と小雨現象が見られ、平成5年には大冷害により「平成の大凶作」となり、全国で甚大な農業被害額が生じた。渇水対策としての人工降雨については、従来のドライアイス法に変わり、実用化の期待が高い「液体炭酸法」の使用事例が紹介された。

#### 2) 有明海・八代海的环境再生、そして防災との調和 熊本大学教授 滝川 清氏

有明海・八代海の現状は、閉鎖性海域であり長年月の間に掃きだめ化し疲弊している。有明海は慢性的な環境悪化の悪循環（負のスパイラル）に陥っており、特に近年はN、P浄化能力が低下し、更に貧酸素塊の多発もあり、平成12年に大量の赤潮発生や平成13年には海苔の色落ちにより、地元には大きな被害が生じている。海域環境の改善策としては、大気と海水と干潟の土が触れ合うこと等により、高い環境回復能力の保持が期待できる、なぎさ線の創出による人工干潟の創生等が提案された。

#### 3) 玄界島の復興 福岡市都市整備局 玄界島復興担当部長 須川 哲治氏

平成17年3月20日に福岡県西方沖地震発生。震源

地に近接した玄界島（人口700人、232世帯）では人的被害として重傷者10名、住宅被害として全壊107軒等の甚大な被害を蒙った。このため島の復興策として、行政（福岡市）と玄界島（玄界島復興対策委員会）が一体となり、協働して復興計画を策定し、施設配置等を定めた。復興のキーワードは「あせらず・あわてず・そして1日も早い復興を」にしている。

#### 4) 防災に向けた地域社会の関わり

##### (社) 日本技術士会防災委員会 山口 豊氏

①近年の自然災害の問題点と課題（自然災害の概況等）、②技術士会の地域防災力向上への関わり（地域防災力向上への具体化等）の説明がなされました。



パネルディスカッション

#### 5) 本日のパネルディスカッションのまとめ

##### 九州支部防災委員長 三浦 哲彦氏及び山口 豊氏

「今後、地域防災力を高めるために、我々・技術士はもっと地域の中に溶け込んでいくべきではないか、専門家（技術・法律等）が身近なところにおいて助けてくれるということで、住民は安心感が持てるのではないか」。以上のセミナーとりまとめがなされ、非常に意義の深い「防災セミナー」でした。



会場風景



# 平成18年度第3回支部研鑽会（CPD）報告



CPD 委員 大久保 英明  
(経営、総合技術管理・福岡)

(社)日本技術士会九州支部 CPD 委員会主催による研鑽会が、10月28日(土)福岡建設会館にて開催されました。今回は、一般共通課題(A区分)から、国際交流(A-10)、安全(A-3)、倫理(A-1)、環境(A-2)の4テーマ(6時間)の講演がありました。100名の参加者を迎え、熱心な聴講と各講演とも活発な質疑応答があり盛会裏に終了することが出来ました。

演題・講師および内容は下記のとおりです。

- ①『国連ハビタットの活動について』 【A-10】  
薄 俊也氏(国連ハビタット福岡事務所(アジア・太平洋地区)調整官、一級建築士)
- ②『有害物質の特性と身近な例』 【A-3】  
泊 正雄氏(泊技術士事務所 所長、工学博士)
- ③『空の安全を支える為に～航空機整備の倫理～』  
中里 公哉氏(九州大学工学府機械航空工学科・講師、九電監査役) 【A-1】
- ④『化学ヤが体感したバイオテクノロジー』  
【A-2】  
里 一男氏(中村産業(株)バイオ研究所主任研究員、  
共立技術士事務所 所長)

講演①では、まず「ハビタット」とは、ラテン語の「住まい」を意味し、「国連ハビタット」(=国際連合人間居住計画)は、人口の増加とともに「スラム化」が進むなか、1978年に世界中の人たちが安心して快適に暮らせる「まちづくり」を推進するため、本部がナイロビ(ケニア)に創設され、現在は、リオ・デ・ジャネイロと福岡の3箇所に拠点があり、活動内容が報告されました。「まちづくり」のポイントは、「魚を与えるより、魚の取り方を教えよう」との考え方で、住民の自立に重点を置いた活動を行っており、その事例をわかりやすく説明された。講演のなかで、自己紹介を兼ねて「ソーラー電動いす」や「博多座の設計」の経験をビデオで紹介され好評でありました。

講演②では、土壤汚染対策法が制定(平成15年2月施行)され、企業の各工場から発生したダスト・スライム・スラグ・廃水等から有機塩素化合物、重金属類、農薬等が地表に降ったり、埋立て処分され、これらが雨水等で地下に浸透し土壤を汚染している。そこで、土壤汚染診断システム構築のため、北九州地区土壤汚染対策研究会を設立し勉強会を行った。特定有害物質の種類ごとの溶出基準値、分子式、物理化学特性、用途、人体への影響、近隣への伝播等について調査を行い、講師の長年の研究成果に基づき、具体例をわかりやすく説明いただいた。

講演③では、講師は航空業界に約40年間にわたり在籍し、航空機の安全を支える整備の重要性を身近な過去のトラブルの分析から、整備のあり方と整備員の安全意識の持ち方についてご見解を述べられ、貴重な講演をいただきました。

航空会社の技術者は、最も人命の安全にかかわる仕事に携わっている。小さなミスが重大事故を招くことがある。従い、常に安全意識を持たねばならない。最近の機体の設計は、フェールセーフ機能が働くことにより安全性が保たれるようになっているが、人間の関与する部分が多く整備員の質と倫理観が重要となり、一人の技術者から組織まで、所謂、「安全風土」を築かなければならないと、述べられた。

講演④では、臭化メチルがオゾン層破壊物質として使用禁止になったり、環境ホルモンのうち約6割は農薬関係で、その一部は登録を取り消されている。このように農業を取り巻く厳しい状況を背景に最近では自然に存在する生物を活用した地球環境にやさしい、安全な有機農業の復活が提唱されている。そのなかの一つに、自然に常在する微生物 *Bacillus thuringiensis* (BT菌) を活用した生物農薬が開発されている。講師は、長年バイオ研究に携わり、産学官の共同研究(5年間)で「抗菌性微生物土壤改良剤」の新製品を開発し、商品化に至る経緯を報告されました。

# 平成18年度 試験管理委員会 業務中間報告



試験管理委員長 齊藤 健男  
(建設・福岡)

(1) 平成18年度・技術士第二次及び第一次試験(福岡試験会場)は、前年度と同様に九州大学六本松地区及び九州産業大学と西南学院大学にて実施された。各試験会場での業務遂行はいずれも平穩裡に経過している。今後の試験会場についての検討事項としては、特に九州大学の新キャンパスへの移転状況と六本松会場使用の可否及び箱崎地区と貝塚地区の施設使用の可能性調査等が必要であり、同大学の公式情報の入手に努めたい。

(2) 試験監督及び試験本部要員の確保について要員確保の中で試験監督員の重要度が大きく例年一定の日程を要する。過去5年間の方法は技術士試験の度毎に次年度日程への出席可否のアンケート調査を実施し、本業務着手時の貴重な基礎資料に活用している。又各委員と支部役員等による新規の技術士監督員紹介は、作業停滞時に有難い情報となる。支部技術士の方々に感謝している。

(3) 技術士第二次試験・福岡試験会場業務  
試験会場：九州大学(六本松地区)

1) 試験部門；総合技術監理部門●試験日時：平成18年8月5日13:00～16:30、●会場設営及び監督業務の体制(勤務時間：10:00～17:30)

| 試験本部長 | 試験本部員 | 試験監督員(技) | 試験監督員(学生) | 本部補助員(学生) |
|-------|-------|----------|-----------|-----------|
| 1     | 3(3技) | 13       | 0         | 11        |

2) 試験部門；総合技術監理部門を除く第二次試験●試験日時：平成18年8月6日9:00～12:00及び13:00～17:00●監督業務の体制(勤務時間：7:30～18:30)

| 試験本部長 | 試験本部員  | 試験監督員(技) | 試験監督員(学生) | 本部補助員(学生) |
|-------|--------|----------|-----------|-----------|
| 1     | 3(内1技) | 82       | 0         | 12        |

3) 受験申込者数、受験者数及び筆記試験合格者状況

| 部門                  | 区分 | 受験申込者数         | 受験者数          | 筆記合格者数 |
|---------------------|----|----------------|---------------|--------|
| 総合技術監理部門            | 福岡 | 477(93.5%)     | 334(95.7%)    | 56     |
|                     | 全国 | 5,870(100.1%)  | 3,963(96.9%)  | 898    |
| 総合技術監理部門を除く技術士第二次部門 | 福岡 | 2,394(100.4%)  | 1,403(98.3%)  | 187    |
|                     | 全国 | 25,912(101.3%) | 15,711(98.9%) | 2,613  |

※①総合技術監理部門の受験申込者全国ベースでは対前年比・同率で、福岡試験会場で6.5%減。②総合監理を除く20部門では、受験者数で全国ベース及び福岡会場とも減。

(4) 技術士第一次試験・福岡試験会場業務

1) 試験会場：九州産業大学及び西南学院大学

2) 試験会場設営及び試験監督業務

①会場設営(10月8日)(勤務時間：14:00～16:30)

|           | 試験本部長 | 試験本部員  | 試験補助員 | 摘要               |
|-----------|-------|--------|-------|------------------|
| 九州産業大学D-1 | 1     | 3(内2技) | 13    | AM9時開始の部門のみ試験室設営 |
| 西南学院大学D-2 | 1     | 3(内2技) | 2     | 試験本部及び標識設営       |
| 合計        | 2     | 6(内4技) | 15    | -                |

※試験開始11:30からの部門は、10月9日に監督員Bの方と本部員・本部補助にて試験室設営を実施

②会場設営および試験監督業務(10月9日)監督員A(7:30～18:00)・監督員B(9:30～18:00)

|           | 試験本部長 | 試験本部員  | 試験監督員(技) | 試験監督員(学) | 本部補助員 |
|-----------|-------|--------|----------|----------|-------|
| 九州産業大学D-1 | 1     | 2(内1技) | 36       | 17       | 13    |
| 西南学院大学D-2 | 1     | 3(内2技) | 57       | 20       | 15    |
| 合計        | 2     | 5(内3技) | 93       | 37       | 28    |

3) 受験申込者、受験者数

| 区分 | 受験申込者数        | 受験者数          |
|----|---------------|---------------|
| 福岡 | 4,642(90.3%)  | 3,744(88.5%)  |
| 全国 | 40,689(91.4%) | 32,183(79.1%) |

※受験申込者数及び受験者数は、前年度に比し減少

(5) 平成18年度技術士試験・試験本部員及び試験監督員/延べ要員状況集計結果

|           | 試験本部員 | 試験監督員 | 合計   |
|-----------|-------|-------|------|
| 技術士       | 19名   | 188名  | 207名 |
| 支部事務局     | 4名    | 0名    | 4名   |
| アルバイト大学生他 | 66名   | 37名   | 103名 |
| 合計        | 89名   | 225名  | 314名 |

(6) 平成16年度から技術士試験センターでは、受験申込書の整理、各試験会場の試験室計画、試験室着席図の設計等や試験監督員・試験本部補助員の編成等を、委託方式で技術士試験の管理業務を企業に発注されている事例がある。実績状況には各支部関係者も関心のある処であるが、技術士試験センターから成果説明があると思われるので、しばし待機したい。なお、主任監督員はセンターの直轄管理下に置かれているのは正当な措置と思う。

# 業務開発委員会報告

業務開発委員長 大里 信義 (化学・北九州)



去る平成18年9月22日、10月16日に日本技術士会九州支部において業務開発委員会を開催したのでその主要な部分の要約について報告する。なお詳細な月毎の最新の委員会報告については支部ホームページの会員のページで業務開発委員会の欄を参照されたい。

## 1. 業務幹旋実行委員会について

- ①本部で行われた業務幹旋実行委員会（技術士会が受託した業務を会員に幹旋する実行機関）に大里が出席した。業務開発委員会が受託した業務の累積数は43件に上って大企業からの依頼も含めて増加傾向にある。
- ②弁理士会との連携について先方との協議中である。
- ③第25回技術士業務開業研修会に大里が『地方における技術士業務の開業』という演題で発表することになった。
- ④会員への業務幹旋を効率的に行うための技術士パーソナルデータベースのテスト運用についての協力依頼があった。近いうちにシステムが稼動すると思われるのでその節は業務の受託を希望する会員はこのデータベースに登録するようにされた。

本部の情報を早めにキャッチし支部会員の業務開発につなげるよう工夫する必要がある。

## 2. 日本技術者教育認定機構 (JABEE) について

JABEEについては今後技術士としてステータスの向上につながる分野である。担当の小出委員がこれまでに、技術士会本部、JABEE本部、日本工学・技術教育協会、九大教授および九産大教授とそれぞれに相談し情報の収集を行った。その結果会員の資質向上のための研修計画として①九州における新人審査員研修会（有料）②JABEEと工学教育協会による一般研修への参加（無料）の2案の提案がなされた。とりあえず②については会員に広報して希望者には参加してもらおうようにすることとなった。

（②については11月16日に実施され技術士会からは25名の出席者があった。）

## 3. 中小企業基盤整備機構事業化助成審査について

中小企業の新事業展開を助けるために行われている国の助成金受給申請案件の妥当性審査業務である。中小企業基盤整備機構から業務幹旋実行委員会が受託して各支部、各部会に振っているもので本年度第1回は6、7月に行われた。申請応募総数は434件でそのうち九州支部には20件の審査要請が来た。評価グループで審査に当たり無事完了したものであるが採択数は全国で52件であった。第2回目は10月20日から書面審査（九州支部は20件を受託、無事終了）、11月27日から面接審査が行われる。

技術士が書面審査した案件についてその品質レベ

ルについて疑問視されるものも散見し、技術士のレベルや今後の業務の評価にも影響するのでお互いに十分気をつけなければならないという意見が出た。なお経済産業省から本部に運営状況のチェックが来るということであった。

## 4. 海外業務促進実行委員会について

本部において行われた海外業務促進実行委員会に支部の宮田委員が出席しその結果が報告された。その中で募集のあった中国技術視察団参加の報告が参加された宮田委員、泉館委員から報告された。技術士代表団参加は42名で中国国際人材交流大会・ハイテク展示会参加の折、技術士会のブースでの中国側から59件の技術支援の相談があり現在その対応策を取りまとめ中とのことで、追って公開される。中国での業務発生の可能性があり注目されたい。視察についての総体的な詳細は後日報告が出る。

## 5. 技術士業務の分類について

委員長から会員技術士が行う技術士業務を分類して委員会としてどのような支援ができるかについて考えやすいようにする提案を行った。分類は

### ①個人で受ける業務

#### 1) 技術士会を通じて受ける業務

（業務幹旋委員会経由、新連携、再生協議会、監査業務、K-RIPなど）

#### 2) 技術士会を通さずに受ける業務

（会社顧問、各種中小企業支援機関から直接に受託するものなど）

### ②組織・団体として受託する業務

#### 1) 技術士会を通じて受ける業務

（中小企業基盤整備機構事業化助成審査、土壤汚染対策、北九州産業技術博物館関連など）

#### 2) 技術士会を通さずに受ける業務

（今のところあまり無い）

上記のうち技術士会を通す業務についての支援を強化する必要がある。

## 6. 有限会社九州技術支援センター廃業について

上記の5で分類した業務の中で組織・団体で受託する業務の受け皿として有限会社九州技術支援センターを活用してきたが、このたび都合により廃業することになった。業務中にはしっかりした受け皿がないと受託できないものもありその対応策に苦慮していた所である。受け皿としてLLPやNPOを作ると言う案も提起されたがいずれも一長一短がある。業務開発委員会としては技術士会本部の業務幹旋実行委員会を受け皿として、そこからの受託業務とすることにより技術士会そのものが受け皿となる方向を模索していくことになった。（本部と折衝中だが可能性はある）

## 部会報告

### 第1部会技術研修会

#### 九州大学伊都キャンパス施設見学会

第1部会長 黒江 浩（機械・福岡）

第1部会では、去る平成18年10月27日、第4部会と共同で九州大学伊都キャンパスの施設を見学した。ビッグオレンジ（説明所）に集合し、ビデオで大学側から伊都キャンパスの全体計画の説明を受け、引き続き福岡市土地開発公社から造成工事の説明を受けた。その後、給水センター（再生水処理施設）に移動し見学、エネルギーセンター・実験施設・工学部教室を見学した。

造成工事では埋蔵文化財調査、埋め戻し、仮復旧、を行い、用地の4割を緑地として環境に配慮して高木移植、根株移植、林底土移植、伐採材木のチップ化などを実施し、環境に配慮したとのことである。またエネルギーセンターでは自家発電設備の説明をうけた。この設備は常用・非常用の兼用機であり、ディーゼルエンジンでは画期的なデュアルヒューエル方式で、常時はクリーンな都市ガス13Aを使用し停電時、ガスの供給が遮断された場合は貯蔵されたA重油に切り替えることができエンジンを停止することなく運転継続可能となっている。

工学部教室では伊都キャンパスの主要プロジェクトとして進められている水素エネルギー利用社会実現に向けた研究が大きく動き出しており、大学をあげて取り組んでいる。これらについて九州大学大学院工学研究院機械科学部門水素利用プロセス研究室の佐々木教授から説明を受けた。

水素研の主な研究課題は

1. 固体高分子形燃料電池（PEFC）の次世代電極・プロセス研究
2. 固体酸化物形燃料電池（SOFC）の電極材料・プロセス研究
3. 水素システムにおける基礎学理の構築である。

また主な燃料電池・水素工学研究設備類として

- ・燃料電池材料調整用機器類
- ・燃料電池セル作製用装置類
- ・燃料電池性能評価システム
- ・電気化学測定装置類
- ・各種顕微鏡
- ・材料分析装置類
- ・ガス分析装置類
- ・燃料電池実験用ガス供給・排気・保安システム

を有している。

燃料電池を作るためには

1. 都市ガスを使ったもの
2. LPガスを使用したもの
3. 灯油を使用したもの・・・食堂に設置予定などがあるが耐久性、コストダウンなど課題が山積している、とのことである。

また、水素イオンのみ通すフィルムがあり、車の中に何枚もは入っていること、電気化学反応をおこさせるために白金を使用しており、車1台に100g使用していること、これの使用量を減らすことが課題であるなど、また現状では発電効率は33%位で更に効率の高いものを求めている、セラミックなどを使用すると800～1000℃で47～49%位になり、これが究極の燃料電池である。固体の酸化物型は基礎的な技術基盤が大事でこれらを単独にやっているのは九州大学だけであるなど、最先端技術について興味ある説明を聞くことができ有意義であった。

今回の見学会は第4部会と合同で開催したが、第4部会長に大変お世話になり、また見学を終了後、有志一同で食堂で懇親会を行ったが、他部会の方の色々な話を聞くことができ有意義であった。

### 第3部会技術研修会

#### 技術・技能伝承と理系離れ

第3部会長 和田 洋二（金属部門・北九州）

去る11月、東京で「製造業におけるスキルの伝承」（主催：計装制御技術会議）というセミナーに出席する機会があり、そこでのパネルディスカッションにおいて「理系離れ」に関する印象的な話を聴いたので、以下にその内容を紹介したい。電気通信大学教授の話によれば、（全国の受験生のうち）工学系の大学志望者数は10年前のほぼ半分で、中でも「物理学」選択は20%とのこと。したがって、工学系学科といえどもかつては当然学んだはずの「物理学」の基礎を学ばずに大学に入る学生が相当の数に上る。このことによって大学における研究や企業の現場においても“原理・原則を回避する風潮”が顕在化しつつあるのではないか、というのが先生の発言の趣旨だった。

この風潮を、当セミナーでのある石油化学メーカーの運転技術に関する事例発表における技術・技能伝



承と関連付けて考えると、反応器などの稼働状況の変化について「なぜ、どうして？」を自らに問いかける姿勢から異常兆候の“気づき”を得ることができる。熟練者は非熟練者に対していかに気づかせるかがカギとなる、とのこと。翻って考えれば“原理・原則に立ち返って考える姿勢”がポイントではないだろうか。

さて、第三部会では、9月2日、九州支部会議室において定例の研修会を行い、部会員による2件の講演を聴講した。

(1) 「ステンレス鋼の製造技術および用途開発」

講演：白井 堯氏（金属・総合技術管理）

ステンレス鋼は、耐食性、耐熱性、加工性、溶接性、磁性、意匠性など工業材料として必要とされる特性の多くを多様な形で持っている。一言でステンレス鋼といっても、Fe、Cr、Niの基準元素組成と添加元素によって非常に多数の鋼種が存在し、それぞれの特性によって一次加工製品から二次加工製品まで用途開発が行われてきた。高級鋼としてその特性が十分理解されないまま高負荷環境に利用されたことによってトラブルが頻発した時期もあったが、現在では先進国のみならず中国、韓国などの発展途上国の鉄鋼メーカーで製造されるようになり、汎用化が進んでいる。現在の年間生産量はおよそ330万トン。

(2) 「海外企業への技術指導・移転に関する技術評価方法の研究(1)」講演：宮田守次氏（金属部門）

日本技術士会海外業務促進委員会での活動に基づいた研究報告の紹介があった。

海外企業への技術指導・移転に当たっては、日本は技術的に優位性を維持しつつ海外への技術移転による国際協力を行う、という観点が重要である。

技術指導における技術評価と研究の目的は、説明責任と透明性にあり、基本的には国内企業の場合と同様だが、国際慣行を考慮し、実態を反映した技術評価として、よりクライアント満足度の高い評価方法にする。また、この技術評価方法の研究は全体最適化を目指し、クライアントの長期的信頼性向上のために技術評価システムの継続的改善を行い、技術コンサルタント業務の発展に寄与することを目的とする。

結論として、①指導経験による技術評価方法の継続的改善の重要性、②派遣団体の設定する技術評価の確認および指導企業の期待・評価の事前確認が重要、③事前と事後の比較検討およびフィードバックの重要性、④技術評価で注意すべきことはマイナス要因（副作用）の把握である。

## 第5部会技術研修会

### 筑後川中流域における 農業・農村整備・現地見学会

第5部会長 小出 剛（農業・福岡）

今年度計画に沿い、これまでに、他の組織（熊本大学、NPO みらい有明・不知火、本部森林部会等）の運営主体による研修会等にも一部共催として参加者がありましたが、紙面の都合もあり、当部会として主体性を持ち開催した「筑後川中流域における農業・農村整備・現地見学会」に絞って報告いたします。

1. 期 日：平成18年10月26日（木）
2. 共 催：九州・沖縄農業土木技術士会
3. 参加者：約20名
4. 課 題：

(1) 農業・農村整備の概要と環境を配慮した防災新技術（ラビリンス堰・らせん流水路）について

①現 地：朝倉市甘木198-1

筑後川中流域における農業・農村整備現地

②概 要：福岡県朝倉農林事務所 農地整備一課長池松昭氏と同県筑後川水系農地開発事務所 工事一課技術主査 田中伸二氏の両氏からの座学の後、マイクロバスによる現地を見学、施工中の苦労話や福農連地域農業の展望など研修。

(2) 環境に配慮したビールづくり

①現地：朝倉市甘木3601「キリンビアパーク福岡」

②概要：「防災と農のめぐみ」のテーマでビール製造工程—環境に配慮したビールつくり—を備に見学。一同は、リサイクルに熱心な同社の姿勢に感銘を受けた事と思われる。

(3) 懇親パーティー

研修終了後は有志7名が10,000本のコスモス畑（キリンビール所有）の景観観賞したのちに同ビアファームで親睦の杯（ジョッキー）を重ねた。

マイクロバスまでのアクセスが自家用車を余儀なくされた参加者が多かったため、パーティー参加者が少なかった事は集合場所の選定等、今後、計画上の参考としたい。ただし、工事現場主体の場合は公共交通機関だけに依存しにくい難点もご理解の程をお願い致します。

## 第4部会技術研修会

# 九州大学新伊都キャンパスの見学会



第4部会長 小宮 信行  
(機械・福岡)

第1部会と第4部会で共同開催しました。

日時は平成18年10月27日(14:30~17:00)のすばらしい秋空の中で行いました。

研修内容：

①大学側から移転の全体計画、福岡市土地開発公社から造成工事の説明を受けました。

② 給水センターで、再生水処理施設、エネルギーセンター・水素エネルギー実験施設・図書館等を移動しながら見学しました。

最後に大学食堂でささやかな反省会を行いました。大学の詳しい移転計画は、インターネット等で調べて下さい。

造成工事の概要ですが、平成12年度着手し、24年度に終わる予定との事です。

造成工事の進捗状況(移転全面積：約275ha)

|        |                  |
|--------|------------------|
| 造成全体面積 | 176.0ha (100.0%) |
| 造成完了面積 | 100.5ha (57.1%)  |
| 着手済み面積 | 46.2ha (46.2%)   |
| 未着手面積  | 29.3ha (16.6%)   |

造成工事は、一時期に集中しないように4工区に分割して行い、また移転用地内で土工バランスを図り、搬入・搬出を最小限に押さえて施工されています。

移転地の早期の樹林化と現況植生の有効活用のため、①高木移植、②根株移植、③林床土移植工法を行っています。



説明会会場にて

既存資源の有効活用として、①伐採された樹木や竹などは全てチップ化し、造成された土地表面に散布して、砂塵の舞上がりや、雨水による土砂流出防止に利用しています。

給水センターで再処理された処理水を、樹木の散水にも利用したいが、現在は保健所と水質問題で協議中であり、理解が得られれば利用したいそうです。

エネルギーセンターでは、燃料が「ガス」「重油」どちらでも動く発電機が据え付けてありました。



ガス・重油どちらも稼働の発電器

水素エネルギー実験室では、佐々木教授から現在の水素エネルギー関係の実験の状況や将来の実用化等について詳しく説明を受けました。

佐々木教授の説明では、水素エネルギー関係では、九州大学は全国のトップクラスとの事です。

地球温暖化等の環境問題解決のためにも、1日も早くクリーンな水素エネルギーの実用化が実現すると良いですね。

図書館では、必要な図書を簡単に取り出せる施設の紹介がありました。一般の方にも条件が整えば貸し出しが出来るとの事です。

今回の施設見学会に際して、九州大学の施設計画課の皆様を始め、佐々木教授、福岡市土地開発公社の方々にご多大なご迷惑をかけました。紙面を借りて厚くお礼申し上げます。

## 地域だより

### 熊本

#### ロードキル

片岡 鉄藏  
(森林：森林土木)



11月11日付けの熊本日新聞の夕刊に「出没注意」の大きな見出しとともに「野生動物の移動が予想されるこの時期の運転に注意を」と呼びかけていた。

記事によると、高速道路に立ち入ったタヌキやシカ・イノシシなど動物の死がい処理件数はこの5年、年間約600-900件にも上るといふ。内訳をみると、昨年の件数646件のうちタヌキが最も多く256件、次いで鳥類が111件、犬・ネコが計94件となっている。動物が車に轢かれて死ぬことをロードキルというが、旧道路公団の調べでは、平成16年の1年間に高速道路上でのロードキルは約35,681件、ここでもタヌキが最も多く14,229件、2番目はネコ3,841件、3番目はカラス2,725件となっている。また、一般道路まで

含めたロードキル件数は10万件を超えると見られている。

野生動物のロードキル発生の最大の原因は、生息地の分断であり、特に多発している箇所は動物の移動経路を分断している箇所と思われる。対策は、立入り防止用のフェンスの補修や高上げとなっているが、過度の人工林化のためエサ場を失ったり、道路が建設されたため水場への道を絶たれた動物のための生息環境の改善、整備こそ必要だろう。

エコロードは、生態系との共存を目指した動植物に優しい道である。国や自治体から立派なマニュアルも出ている。が普及しているとは思えない。エコロードの報告の多くは自然公園や特に多発する箇所での対策である。

しかし、高速道路上のロードキルはタヌキが4割を占めていて圧倒的に多い。タヌキはキツネとともに日本全国にまんべんなく生息する、古くからの我々の身近な動物である。その意味でエコロードは特定の地域のものではなく、すべての道路がエコロードとして「動物に優しい道」を目指してほしいものである。

### 鹿児島

#### 平成18年度上半期の活動について

幹事 後藤祐一郎  
(総合技術監理、農業)



鹿児島県技術士会は会員数224名で組織され、年一回の定期総会のほか、CPD対応技術研鑽会技術講演会などの活動を行っています。

上半期の活動状況について報告いたします。

平成18年度の定期総会は、5月27日会員45名出席のもと開催され、平成17年度の事業報告、収支決算、平成18年度の事業計画、予算などの審議を行い、原案の通り可決承認されました。

事業計画の中で、CPD対応技術研鑽会・技術講演会を継続実施することのほか、技術士活動の活性化の一方策としてNPO法人組織設立の検討を始めること、災害技術支援部会活動を継続することなどが決定されました。

本年度第一回の技術講演会は、総会后「かごしま

技術21講演会」として、「植物生態系の現状と未来・・・鹿児島の植物と自然・・・」をテーマに鹿児島県環境アドバイザーの岡田 水城さんに貴重なご講演をいただき、会員の好評を得ました。

CPD対応技術研鑽会は、会員が持ち回りで講師を努めて行っています。

上半期の研鑽会でのテーマ等は次の通りです。

- 6月研鑽会 地盤科学と地球科学のトピックス  
・・・土と水と炭素を考える・・・  
講師 田中 義人さん
- 7月研鑽会 コンクリートの劣化原因と鹿児島県のコンクリートについて  
講師 竜野 三生さん
- 8月研鑽会 鹿児島県の多様な用排水路  
・・・環境との調和に配慮・・・  
講師 中村 良二さん
- 9月研鑽会 生態系について  
講師 小川 和久さん

総会で決定したNPO法人組織設立については、検討を重ねた結果、鹿児島県技術士会とは別組織で「NPO法人鹿児島技術士の会」を組織し積極的に社会に貢献していくことになりました。

## 大分

### 大分県協会の近況

(株)大分県技術士協会  
代表幹事 冷川 久敏  
(水産、総合技術監理)



当協会は、7月1日から幹事に交代がありました。新体制につきましても、旧来と代わらぬご教示・ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

新体制になって、「今後の会のあり方」について、検討した結果、①会のあり方・今後の活動について、②CPDの取得について、③見学会の催行と時期に絞って会員全員(80名)にアンケートを取ることにしました。

会員80名の内59名(73.3%)から回答が寄せられました。まず、①の会のあり方については、「何か活動したい」が圧倒的に多く、回答者の81%に上りました。具体的には、イ、会のホームページを立ち上げる。ロ、近い将来NPOをたちあげる、ハ、各種の研修会や講習会に協力する、ニ、災害の予防・回避・復旧等に関して官公庁に積極的に協力する、の3項目が、複数回答者も加えてほぼ同数(37~40%)ありました。

②のCPDの取得には、全員積極的で、イ、参加費を負担してでも地元で開催できるようにしたいが、圧倒的に多く78.3%を占めた。これは、現在CPDが取得できる研修会や講演会等が福岡市に偏って開催されていることを受けての会員の反応であります。大分県下から福岡市内でのCPDに参加すれば、平均1万円以上の経費と1日掛りの時間が必要で、な

かなか参加できない現状にあるためです。また、年間CPD60時間の根拠はどこにあるのか、理解できない面もあります。

当会では、学識経験者や技術士会の会員、新工法や新システムを開発した企業、他の会(RCCM会・コンクリート診断士会、建設業協会、工業団体等)と相互乗り入れで協力体制を作り、県内で30時間程度のCPDの取得を目指すことが可能かどうか検討中でありますので、九州支部のCPD委員会のご指導をよろしくお願い致します。当会は、会員数も少なく会計規模も小さいために、講師には、旅費以外ほとんど手弁当でお願いすることになるかと思いますが、九州支部の会員の方で奇特な方がありましたら、よろしくご指導頂ければと考えております。

当面の活動は、先ず会員相互間の連絡体制を整えるのを最優先に、現在「メーリング登録」をしており、19年1月から利用できるように準備中であります。NPO活動につきましては、当会を必要とする場があれば、じっくりと考えて行動を起こしたいとしております。その節は、先進の各県協会のご指導を賜りたいと考えております。

見学会は、11月23日に「夢の大吊り橋」に21名で行って参りました。生憎の小雨の中でしたが、これが幸いして通常2~3時間待ちの所を全く待たずに見学することが出来ました。橋の設計は、当会の副会長をしています岩男社長の「協同エンジニアリング(株)」が行いましたので詳細な資料と丁寧な説明付で良い研修になりました。見学後は「やまなみ牧場」で「箸でちぎれる豊後牛のさし入りステーキ」で簡単な懇親会を行い満足のいく研修会となりました。

以上、大分県協会の近況をお知らせ致しました。

#### 会員情報の問合せ

会員名簿発行が中止になり、会員情報の問合せは、次のようになりました。

支部会員：①本部コンピューターの「会員情報DB」の利用

アクセスの方法、WEB名簿の利用等については、月刊「技術士」(2005年10月号 P30)をご参照ください。

②所属の部会長(第7部会を除く)か、所属の地区代表幹事に問合せ下さい。

センター会員：①所属の部会長(第7部会を除く)か、所属の地区代表幹事に問合せ下さい。

|           |      |
|-----------|------|
| 第1部会長     | 黒江浩  |
| 第2部会長     | 佐竹芳郎 |
| 第3部会長     | 和田洋二 |
| 第4部会長     | 小宮信行 |
| 第5部会長     | 小出剛  |
| 第6部会長     | 松浦茂雄 |
| 福岡地区代表幹事  | 針貝武紀 |
| 北九州地区代表幹事 | 長崎治夫 |
| 佐賀地区代表幹事  | 藤永正弘 |
| 長崎地区代表幹事  | 大橋義美 |
| 熊本地区代表幹事  | 加来雄一 |
| 大分地区代表幹事  | 吉良文一 |
| 宮崎地区代表幹事  | 新城精一 |
| 鹿児島地区代表幹事 | 竹元幹生 |



I

## 「自分史」にチャレンジ

小川 康夫  
(建設・福岡)



### 1. まえがき

道路建設業に就職して37年目、年齢も54才になり、数年前から自分の過ごしてきた生き様を「自分史」として残したいと思うようになってきた。幸いにして技術的な論文の他にも社内報や業界紙にエッセイ等を投稿した物が数十編有りこれを数年前から整理してきたが、なかなか構成のイメージわかず延び延びに成っていたが、今年の7月に「デジタル時代の人生整理術」という記事に出会い、これを参考に「人生整理表」なるものを作成した。

この表を整理することで、自分が本当に残したい記録だけに絞り込み易くなってきた。構成としては「言葉の杖編」「出逢い編」「技術編」および「著作集」にしようと思っている。以下に「言葉の杖編」と「技術編」の一部を紹介したい。

### 2. 言葉の杖編の一部

○「きれいな字を書く事は難しいが、丁寧な字は誰でも書ける」昭和40年前後

この言葉に出逢ったのは、たぶん小学校高学年か中学生の時だったような気がする。下手な上に、乱雑な字を書いていた頃、折に触れ親父からよく言われた。親父も字が下手なことで苦労をしたみたいで、青年団の役員になったときに必死で練習したらしい。

日本道路(株)技術研究所に入社した時、新入社員の慣例業務として上司が走り書きした下書きの清書があった。その時、この言葉を教訓に出来るだけ丁寧に清書した。そのうちに、「小川の字は決して上手ではないが読みやすい」と褒められ、清書要員として重宝がられた。

走り書きの下書きには読みにくい字が多く、質問にいくと上司も余裕があるときには丁寧に教えてくれるが、期限が迫ったりして余裕がないときには、「一つや二つ字が読めなくても前後の関係から類推できるだろう！」と雷が落ちた。

ただ清書するのでは無く、何を言わんとしているかを読みとりながら清書することで、技術文書の書き方を学んだ。

日本道路受験動機の一つとして、作文の試験がなかったように作文嫌いだった私が、約20年後に自分

の技術論を短時間に書く事がポイントの一つである技術士に合格できたのは、この親父から授かった言葉に感謝するところ大である。

### 3. 技術編の一部

○「九州道上り線 KP132.7付近：音の出る舗装」平成3年1月頃

平成3年頃まで九州道南関・八女間はスピードの出し過ぎや居眠りが原因の交通事故が多発しており、道路公団植木管理事務所から弊社に(日本道路(株))舗装技術で交通事故を抑制する提案を求められた。当時、中国道に337拍子でガタガタと車に振動を与える前例があったが、2番煎じではない新しい技術を要望された。

路面排水溝切り(□50×50mm)の箇所では音が出る事をヒントに、空港滑走路の停止距離減少や滑り対策に用いられているグルーピング(連続溝切り)で「音」を出し、警告する方策を検討した。リズムや音階が出せないかグルーピングマシンの性能・機構を調査し、リズムは溝切りの有無や延長で可能であり、溝の幅を変えれば音階も出せるが施工面から困難な事が解った。

また、アフター5のお付き合いで「和太鼓」と縁があり、和太鼓には音の長短と打音の間隔でリズムを表現する事を知った。また、「和太鼓」には基本のリズムがある事を聴き、実際に叩いてもらったものを5曲を録音し施工と協議し、1曲を選定した。

溝の寸法・ピッチは北熊本サービスエリアでの試験施工で決定、溝切りの延長や間隔は心拍数、車のスピード、車軸数・軸距などを考慮し決定した。

供用開始直後には、「不気味な音がする」「びっくりして車を止めた」などの投書が新聞に掲載され、悪評な面もあったが、当時の公団所長の「ドライバーに気付いてもらうという目的は達成しているのだから、悪評に対して何らかの対応をすべし」との判断から、「音の出る舗装」である看板を数枚立てることによって、問題を解決した。数年で溝が潰れ用をなさなくなるだろうと思っていたものが、15年後の現在でも交通事故防止に役立っているとのことであり、提案・施工者として嬉しい限りである。

なお、設計者の意図としては、「タツタアン、タツタアン、タツタタツタ、タツタアン」のリズムにしたつもりであり、宜しければ九州道入り線南関～八女間で体験頂きご意見を賜れば幸いです。

## II

# PE道場 (Professional Engineer)

～誰でも挑戦できる技術士資格取得を目指して～



盛永 保弘  
(農業・佐賀)

### 1. はじめに

私は、技術士になると同時（平成16年5月）にNPO法人技術交流フォーラムに入会しました。当フォーラムは、前身が任意団体の「佐賀技術士会」で、ボランティア活動が続ける中で「法人化」の必要性を痛感したということです。そこで、活動の幅を広げる意味もこめて、佐賀技術士会を解散し、替わって当フォーラムが平成13年10月に創設されました。

私は、現在、当フォーラムで「研修代表委員」をしています。研修委員会の活動内容は、大きく2つあります。一つ目は、PE道場・RCM道場の運営で、二つ目は、当フォーラムから月例研修会（県土づくりコンサルタンツ協会主催）への講師の派遣です。

今回は、研修委員会の活動の中から「PE道場の運営」について、私の体験を通じてご紹介したいと思います。

### 2. PE道場

技術士養成講座は、佐賀技術士会の時代から「CE（コンサルティング・エンジニア）塾」として開設されてきました。CE塾は、平成9年度（第1期）～平成17年度（第9期）まで実施され、十数名の技術士合格者を出しています。私も第5期生として、CE塾で勉強させてもらった中の一人です。

平成18年度は、品質確保に関する法律の施行、総合評価方式の導入、アセットマネジメント、技術者倫理の必要性などの時代背景を踏まえ、社会に認知される技術者としての技術士を育成することが急務であるとの結論に達しました。そこで、寺子屋方式の「塾」から熱血指導の「道場」への転換を図り、受講者、指導者ともに厳しい修練を積みながら道場を運営していくことを決めました。「PE道場」の始まりです。

ここで、PE道場の概要をご説明致します。まず、受講者から事前に業務経験論文（1000字程度）を提

### 4. あとがき

完成までにはまだまだ時間がかかりそうではあるが、人生整理表をベースに項目を絞り込み5年以内には形にしたいと思っている。

出してもらい、面接でコース分けをします。指導者側（技術士保有者）も、1000字程度の指導方針、受験経験等を提出してもらいます（後で受講者に公開）。コースは、標準コース（20回で合格ラインに達するであろう人を対象）、特進コース（既受験者等の10回で合格ラインに達するであろう人を対象）、2年コース（10回/年の2年での合格を目標とする人を対象）の3コースにクラス分けをしました。

次に、指導者と受講者のペア（なるべく専門分野が同じとなるように）を決めます。学習日及び場所は、クラス毎に決定し、学習の標準時間を2時間/日としました。最終的には、1クラス3～5名程度（指導者・受講者共）の5クラスでのスタートです。

PE道場は、クラス毎の学習となるため、情報の共有が不可欠となります。そこで、受講者の個人カルテ（個人情報が含まれるため各受講者の了解を得ました）を作成し、月に一度統合カルテをPE道場に係わる人に発信することにより、情報を共有出来る形としました。カルテには、日時場所、指導内容、次回までの宿題、前回の宿題への対応、指導者のコメントを記入することになっています。また、定期的に指導者会議を開催して、情報を共有し、指導方針の確認を行いました。

現在（11月初旬執筆）は、PE道場を終え、間近に迫った筆記試験の合格発表が待たれます。

### 3. おわりに

研修委員の役目は、「受講者同士あるいは受講者と指導者が切磋琢磨できる環境」「資格を取りたいと、強い思いを持ち続けてもらえる環境」「若い技術者が初歩からスキルアップ出来る環境」「学習を通じて技術的な視野を広げられる環境」等々を創出することではないかと現在考えています（これからの活動で考えの変化があるかもしれませんが・・・）。

今は、PE道場から一人でも多くの技術士二次試験（筆記試験）の合格者がでることを願っています。

## 深層混合地盤改良体の品質と品質管理



古賀 浩史  
(建設・佐賀)

### 1. はじめに

軟弱地盤の改良工法として、セメントや石灰を用いた深層混合地盤改良が広く用いられている。また近年では、改良強度を高く設定して改良率を下げる設計や、逆に低強度改良により地盤全体を改良する考え方も用いられている。このようなことから、深層地盤改良に求められる品質（均質性）はより高いものとなっている。

### 2. 深層混合地盤改良の設計・施工

深層地盤改良によって施工された地盤改良体は、理想的な混合条件にて攪拌された室内配合供試体の強度や変形特性と異なることは従来から指摘されている。この現地攪拌性能の差による現場と室内の強度比を小さくすべく、施工機械や攪拌方法等のハード面の改良や研究がなされている。特に軟弱な粘土地盤を改良する場合、攪拌翼に現地土が付着して回転し、固化材が均質に混入されない「供回り」現象が発生する。この現象を回避する施工方法、攪拌翼の構造や形状、固化材の添加方法等は、今後も最も技術開発が期待される部分であろう。

設計段階においては、地盤改良施工本数を減らして経済的とする目的で、いたずらに設計強度を高く設定するのは避けるべきである。また、均質な改良が困難となるような、少ない添加量での施工を要求する設計も避ける必要がある。

### 3. 深層混合地盤改良の品質管理

深層混合地盤改良の品質管理は、事前調査・施工前試験・施工後の確認試験において、一軸圧縮試験が多用されている。これは試験の簡便さに加えて、設計時に現場で確保すべき強度や変形特性を、一軸圧縮試験をベースとして要求されることが多いことに起因している。

しかし、一軸圧縮試験に用いる供試体は、ボーリング時の振動や圧力により強度が低下したり、作業者の熟練の度合いでクラックの増長なども発生し、現場での状況を再現できていない面もある。逆に一軸圧縮試験の性質上、ある程度の長さを有し、固結した状態のコアでなければ試験不可能なこともあり、混合・固化状態の比較的良好な試料にて試験がおこな

われている場合が多い。また、供試体の採取頻度は経済性や施工性の面から、深さ1m当たり1～2個程度と比較的少ないのが現状である。

「有明海沿岸道路 軟弱地盤対策 技術基準（案）」では、これらの欠点を補うべく、回転貫入サウンディング試験や針貫入試験（軟岩ペネトロメーター試験）を用いる方法を規定している。

針貫入試験は、採取したボーリングコアに針状の試験器を貫入し、貫入量と貫入抵抗から地盤改良体の強度を確認する方法である（写真－1参照）。簡便な試験方法であり、連続した強度の管理が可能であるため、今後はこれらの方法を用いて、より高い品質管理を行うのが望ましい。

同様の試験器として、山中式土壤硬度計がある（写真－2参照）。これは主に耕作土の硬度や、種子吹き付け法面の硬度を測定する機器であるが、一軸圧縮強度と土壤硬度計測定値の比較を行うことで、針貫入試験同様に連続した強度特性の把握が可能となる。



写真－1 針貫入試験器（軟岩ペネトロメーター）



写真－2 山中式土壤硬度計

### 4. まとめ

今後、より高い品質の地盤改良体を施工するには、施工機械の改善のみならず、適切な品質確認方法の確立が必要である。また、地盤や地盤改良、構造物の特性・性質を考慮した、適切な設計が行われる必要があると考える。

## 身近な話

### 本当はすごい たばこの実力

竹内 良治  
(建設、水道、衛生工学、  
総合技術監理・北九州)



喫煙に関しては、蘭印350年の植民地政策も恥ずかしくなるような立派な愚民政策を続けている。しかも、健康 TV 番組では厳しい検閲の目が光っている。例えば、喫煙が主因で男性が90%占める疾患の再現ドラマでモデルが女性なのである。脂濃い食事シーンを流し、最後にナレーターがこの病気の原因は高脂肪食事や喫煙と言うだけで喫煙シーンはない。

たばこの最強の実力はタールでもニコチンでもなく、一酸化炭素 (CO) である。鹿児島県の防空壕で中学生が CO 中毒で亡くなったときの CO 濃度が 300ppm でした。それに比べたばこの主流煙は 40000ppm 前後と、自動車排気ガスと同レベルです。

その結果、喫煙者のヘモグロビン (Hb) の10%が酸素を運べない一酸化炭素ヘモグロビン (COHb)

になる。その一部が肺で CO を放出するため、喫煙者の呼気にはいつも、日喫煙本数 ppm の CO を吐いている。因みにアッコの呼気は50ppm でした。

さらに、細胞に十分な酸素を送れなければ壊死、さもなければ酸素を運ぶために10%余分な Hb を循環させなければならぬ。すると、血液ドロドロは無論のこと、仕事をしない COHb はキラー細胞 (警察) から攻撃され、失業者 (COHb) あふれる治安の悪い通りになってしまう。警察の連行をまぬがれようとコレステロールを伴って血管壁に逃げ込んでしまう。バクダットの市街地を想像していただきたい。米軍装甲車が走り回るそばに燃えた車、瓦礫、失業者、自爆テロとなる。

この状態が血管でつづくと動脈硬化、動脈閉塞なのである。具体的疾患としては「狭心症、心筋梗塞」、「脳卒中」、「閉塞性動脈硬化症、バージャー病」、「〇〇臓器動脈血栓症」と無限である。

私見でたばこの害力を見ると CO が 6、タール 3、ニコチン 1 と思われる。それでも、愚民政治に甘んじますか。市川昆、たけし、大竹も止めました。ぜひ専門家に休煙のご相談を。

## 身近でないけど聞いてほしい話

### 読売の戦争責任を読んで

竹内 良治  
(建設、水道、衛生工学、総合技術監理・北九州)

昨年、読売新聞が先の大戦の国民に対する責任を大特集した。年末には硫黄島戦の映画 2 本が封切られた。筆者も日清戦争から徹底的に学び直した。

その中で、あまり触れられていない話を述べたい。まず、敗因は情報の隠蔽・軽視 (独の中国支援)、故意の誤報 (大本営発表)、暗号筒抜け、に尽きる。その典型として44年10月上旬、「台湾沖航空戦にて敵空母19隻撃沈 (事実0)」、米国では株価暴落 (不都合情報の公開)。連合艦隊はこの虚報により、10月23日からのレイテ沖海戦を始める。同時に12月まで、制空権のないレイテ島に1万人ずつ10回、上陸を試みる。550隻の艦船、10万人の97%を失う。

次に、どういう訳か特集に蘭印占領とラバウルの話がない。この主役が今村大将である。42年3月ジャワ島上陸、4万の日本兵を20万と計り、10余万

の蘭軍を無条件降伏させる。さらにスカルノを味方につけ、油、白布などを本国に輸送する。予想以上の成果に首相の嫉妬を買い、同年11月、絶対生きて帰れないラバウル (R) に飛ばされる。R は米軍に占領されたガダルカナル島から1000km 北にある。次に R が第二のガ島となるはずだった。12月、ガ島撤退決定する。

ここから今村の真骨頂を発揮する。ガ島の飢餓教訓から、開墾自給を目指す。7万の兵を三班に分け、開墾、要塞掘、軍事訓練を二日ずつ、一日休みとした。もちろん、空襲、艦砲射撃、陸戦と本業も多忙を極める。陸戦の守備隊 (ズンケン) のなかに「水木しげる」がいた。終戦時、12万の兵一人飢えることなく、畑7500ha、地下壕は450km に達していた。ほぼ同時期、ニューギニア東に16万人投入されたが、敗戦時1万人であった。戦後、豪州軍事裁判で有期刑、蘭印軍事裁判で無罪となった。巣鴨に拘置されるが、R の部下が収監されているマヌス島を希望し、そこで部下の減刑に奔走する。

硫黄島戦の映画をとおして C. Eastwood が言いたかったことはバクダットも硫黄島と同じである。



## 修習技術者の声

### 技術士との出会いと 将来への抱負

柿永 弘之  
(経営工学・長崎)



私が「技術士」という資格をはじめて知ったのは社会人2年目頃のことだったと思います。しかし、経済学部出身であり、周囲に技術士の知り合いもない当時の私にはその資格がどんなものかもわからず、ただ「面白そうな資格」と思っただけでした。

その後転職してプログラマ・SEとして仕事をしていた中で、業務で得た技術や知識に加えて、大学や最初の職場で学んだORや統計などを活かした仕事がしたいと思い、技術士の取得を考えるようになりました。受験の手引きを一度取り寄せたことはあったものの、本当に受験すると決意したのは昨年のもので、受験対策をしていくうちにようやく技術士という資格の重みがわかりました。

幸運にして第一次試験に合格でき、現在は修習技

術者として歩みを進めているところです。第一次試験の受験対策講座から現在までに出会った、実際に技術士として活躍されている諸先輩方の、技術や知識の素晴らしさはもちろんのこと、人間としての魅力にもあふれる姿を見て、自分も早くあのようなになりたいと常々思われます。

私が将来の目標としているのは、自分の技術や知識を活かして、技術者と経営者の橋渡しの役割を果たすことです。科学的管理法で有名なテイラーの「労使双方の共存共栄」という思想に強く共感を覚え、また技術者倫理の問題等でしばしば技術者としてのあり方と経営上の方針とが対立するのを目の当たりにし、管理技術としての性格の強い経営工学の立場からこうした問題の解決策が見出せないかと考えるようになりました。

まずは、技術士となるにふさわしいよき技術者となるために、更に励んでいきたいと思っております。まだまだ未熟な私ですが、皆様のご指導の程宜しくお願い申し上げます。

## 広報委員会からのお知らせ

季刊発行の「技術士だより」の内容を本号から、下記のように一部変更することにいたしましたので、お知らせいたします。

皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

記

### 1. 「技術士だより」の発行日の変更

1月号を新年号とし、以下次のように発行日の変更を行なうこととしました。

(新年の抱負等の掲載を配慮して)

- ① 春号 3月 ⇒ 4月
- ② 夏号 6月 ⇒ 7月
- ③ 秋号 9月 ⇒ 10月
- ④ 冬号 12月 ⇒ 1月

### 2. 執筆者の写真掲載

執筆者の写真が掲載されることで、コミュニケーションの機会が増えることが期待されますので、次回発行号から写真の掲載を行なうこととしました。

### 3. 『知識の窓』の名称を『身近な話』に変更し、健康、趣味などの話を掲載

現在の「知識の窓」の内容が「声の広場」とあまり変わらないようになってきていますので、当初の趣旨である身近な健康や趣味等のくつろいで読める内容に特化していきたいと考え、タイトルを「身近な話」としました。

### 気軽に原稿をお送りください

「技術士だより」から、技術士の皆さんの気持ちが溢れて、活き活きとした息吹がほどこされるようにしたいと思います。それで「声の広場」の原稿をお送りください。例えば、

- ①なぜ技術士になったのか。
- ②技術士になって判ったこと(よかった点、足りない点、意

外だったこと。etc.)

③技術士としてこんな仕事をしたい。

④いま、仕事のうえて悩んでいること。

この他にいろいろあると思います。お気軽に書いてみてください。原稿は1,600字程度。送り先は支部事務局。FAXかE-mailで、どうぞ。

# (社)日本技術士会九州支部・九州技術士センターの一本化について

(社)日本技術士会 九州支部長 光岡 毅  
九州技術士センター 会長 小出 剛

首題の件につきましては、平成18年6月24日の「18年度第1回支部・センター合同役員会」での確認事項を次のとおり、改めてお示し、各位の益々のご理解とご協力をお願い申し上げます。

## 1. 背景と18年度定時総会での決定事項

昭和40年創設の九州技術士センターに次いで日本技術士会九州支部が設立され、両者は日常活動と予算面を通じて協働し、センターが支部運営の補完的役割も果たして来た。一方、技術士ビジョン21に基く行動指針により、会員拡大と組織の充実に向け、国では公益法人制度改革が国会決議され、併せて第3期科学技術基本計画が平成18年度から施行される。これらを勘案した結果、現在の日本技術士会九州支部と九州技術士センターの組織を一本化による効率的運営を行う事について、次のように18年度総会での同意を得た。なお、他の動向として、東北支部では15年度から、既に一本化がなされ、北海道支部でも九州支部と同一歩調で一本化の準備がなされている。

現在のセンター会員各位は日本技術士会に入会して頂き、日本技術士会九州支部として一本化し、九州技術士センターは19年度から廃止する。現在のセンター会員で、日本技術士会入会への検討を要する方々のために暫定的に19年度に限り九州支部協賛会員制度を設け、支部に直接協賛会費(8,000円/年)を納付する事とする。細部については18年度中に決定。

## 2. 一本化の準備委員会と行動予定(18年5月現在)

### 1) 基本的事項

支部・センターにおける最重要課題であることから、特別委員会を設けず、一火会で一切の準備・行動の計画を討議し推進する。(18年5月・一火会決定)

### 2) 今後の予定

- (1) 九州支部ホームページ、季刊「技術士だより」、CPD開催時、各地域・各部会での会合時等、あらゆる機会を捉えて、上記の決定事項を説明し理解を得る。
- (2) 官公庁、民間各社の会員(必要により支部役員を含む)から職場単位での日本技術士会への入会を積極的に勧誘する。
- (3) 上記の説明・勧誘機会の強化月間を7~12月とし、12月にセンターだけの会員に対して、往復書簡による各位の意思確認を取り付けたい。内容は、①19年度から日本技術士会に入会する。②19年度はひとまず支部協賛会員となり20年度から日本技術士会に入会する。③その他のご意見。①、②、③いずれかの意思確認とする。

## 3. 改めてのご連絡

### 1) お問合せ

センター会員各位のお手元には、既に12月末時点で、上記2.-(3)に基づく、お問合せの書簡が到着済みのことと思います。同封内容は下記の通りとなっております。

- ① 問合せの趣旨と回答用はがき。
- ② (社)日本技術士会・入会のご案内(入会申込書・返送用封筒付)

### 2) お願い

- ① 問合せの回答はがきを1月25日までにご返送下さい。
- ② この際、(社)日本技術士会の入会手続きをされる方は、同封の入会申込書にご記入の上、ご返送下さい。

## 御協力いただいている 賛 助 会 員

|                    |                 |                  |
|--------------------|-----------------|------------------|
| ……………〔福岡〕……………     | いであ(株)九州支店      | 大洋測量設計(株)        |
| 日本総合コンサルタント(株)九州支店 | 大和コンサル(株)       | 西日本コンサルタント(株)    |
| (株)建設環境研究所         | アジアエン지니어リング(株)  | 東洋測量設計(株)        |
| (株)唯設計事務所          | ……………〔北九州〕…………… | 九建設計(株)          |
| 中央開発(株)九州支社        | 日本航測(株)         | 日進コンサルタント(株)     |
| (株)ダイヤコンサルタント九州支社  | (株)九州設計事務所      | ダイエーコンサルタント(株)   |
| 日本工営(株)福岡支店        | 九和設計(株)         | ……………〔宮崎〕……………   |
| 昭和地下工業(株)          | (株)都市開発コンサルタント  | (株)弓場水工コンサルタント   |
| 第一復建(株)            | (株)松尾設計         | (株)ロードリバーコンサルタント |
| (株)松本組             | (株)酒見設計         | (株)ケイディエム        |
| (株)エスケイエンジニアリング    | (株)太平設計         | (株)親協            |
| (株)福山コンサルタント       | 環境テクノス(株)       | 南日本総合コンサルタント(株)  |
| (株)東京建設コンサルタント九州支店 | ……………〔佐賀〕……………  | (株)宮崎産業開発        |
| 東邦地下工機(株)          | 新九州測量設計(株)      | (株)西田技術開発コンサルタント |
| 大成ジオテック(株)         | 西日本総合コンサルタント(株) | (有)福島測量設計調査事務所   |
| 富洋設計(株)九州支社        | 日本建設技術(株)       | 九州工営(株)          |
| (株)サンコンサル          | (株)九州構造設計       | 正栄技術コンサルタント(株)   |
| (株)橋梁コンサルタント福岡支社   | 新栄地研(株)         | (株)東九州コンサルタント    |
| (株)アイ・エヌ・エー九州支社    | ……………〔長崎〕……………  | 日測コンサルタント(株)     |
| (株)九州地質コンサルタント     | 大栄開発(株)         | (株)ダイワコンサルタント    |
| (株)タイヨー設計          | (株)実光測量設計       | (株)白浜測量設計        |
| 日鉄鉱コンサルタント(株)九州支店  | 西日本菱重興産(株)      | 南興測量設計(株)        |
| (株)大建              | 大洋技研(株)         | (株)アップス          |
| 新地研工業(株)           | (株)親和テクノ        | (有)カツキ技術士事務所     |
| (株)カミナガ            | (株)新栄設計事務所      | (株)国土開発コンサルタント   |
| 平和測量設計(株)          | 扇精光(株)          | (株)都城技建コンサルタント   |
| (株)高崎総合コンサルタント     | ……………〔熊本〕……………  | ……………〔鹿児島〕……………  |
| 西日本コトラクト(株)        | (株)九州開発エンジニアリング | 中央テクノ(株)         |
| 西鉄シーイーコンサルタント(株)   | アジアプランニング(株)    | 朝日開発コンサルタンツ(株)   |
| 日本地研(株)            | ……………〔大分〕……………  | (株)久永コンサルタント     |
| 第一設計(株)            | 松本技術コンサルタント(株)  | コーアツ工業(株)        |
| 九州環境技術研究所          | 協同エンジニアリング(株)   | 大協(株)            |
| 西日本技術開発(株)         | (株)日建コンサルタント    | (株)建設技術コンサルタンツ   |
| (株)富士ピーエス          | 東亜コンサルタント(株)    | (H18.8.7現在 95社)  |
| (株)構造技術センター九州支社    | 九州特殊土木(株)       |                  |

## 九州支部平成18年度第4回CPD

- 日時 平成19年1月27日(土) 10時～17時  
場所 九州ビルディング(博多駅南1-8-31)  
講師及び内容(技術士にはCPD認定6単位)
- 1) 恒吉隆裕氏(福岡県商工部自動車産業振興室・企画主幹)  
【演題:福岡県の自動車産業振興策の現状と課題】
  - 2) 鶴田隆治氏(九州工業大学工学部教授)  
【演題:食品中の水に関わる乾燥や凍結技術】
  - 3) 丸本卓哉氏(山口大学学長)  
【演題:地球環境の保全と修復における微生物・植物・人類の協働】
  - 4) 未定((社)日本技術士会本部)

【演題:技術士法制定50周年を迎えて】

講演及び出席者による討論会

参加費 1人 3,000円(当日徴収)

申込先 (社)日本技術士会 九州支部

TEL:092-432-4441 FAX:092-432-4443

## 北島孝則氏 新事務局長に就任

昨年の9月より九州支部の新事務局長として北島孝則氏が就任されました。北島氏は前職の建設会社では海外での勤務も長く、語学の方も堪能とお聞きしています。

## 会誌“技術士”最近の主要目次

### [PE] 技術士9・2006

- ・モノづくり、チエづくり、チエモノづくり／福川伸次
- ・いまの時代の技術者倫理／堀田源治
- ・原子力設備のコンクリート放射化低減技術／林克己・金野正晴
- ・PSEマークと製品安全／柴川久光
- ・国際エンジニアリング会議ワークショップ2006参加報告／畑尾成道
- ・本会の新たなシンボルマーク公募のお知らせ

### [PE] 技術士10・2006

- ・アジアの中の日本-溶接技術者の立場から／牛尾誠夫
- ・国際協力事業からみる技術者倫理-森林・林業分野からの考察／久野篤志
- ・エコアクション21／中村 央
- ・ひとが支える「ちえものづくり」／永田一良・久保俊介
- ・「現代日本を救うロボット技術」衆議院議員小野代議士の講演要旨／江口正芳
- ・斜面災害における新たな対策工／横田善弘

### [PE] 技術士11・2006

- ・科学技術こそ最重要政策課題／斉藤鉄夫
- ・技術者倫理と企業現場の悩み／宮田哲郎
- ・環境影響物質規制“ROHS指令への対応”／堀内孝男
- ・サプライチェーンマネジメント(SCM)／榎本昌之
- ・シートベルトおよびエアバックとその繊維の特徴／斉藤磯雄
- ・高城重厚氏の故郷へ帰る-環境・化学・技術者倫理と大口市の産業遺産・地域活性化／杉本泰治

### [PE] 技術士12・2006

- ・技術士と建設コンサルタント／石井弓夫
- ・公務員技術者の倫理を考える／河北慶介
- ・省エネルギーのトータル評価-水のケーススタディ-／岡田誠之
- ・雪と氷と災害と／松田益義
- ・超伝導技術の現状と将来／田中昭二
- ・食品の安全性確保の考え方／湯川剛一郎
- ・創立55周年記念・第33回技術士全国大会報告／山口 豊

## 編集後記

あけましておめでとうございます。

昨年の「技術士だより」の記事を振り返りますと、2月にパキスタン地震で亡くなられた福岡市の故榎原覚氏に日本技術士会より合格認定証授与/3月古賀事務局長が退任され松尾憲一新事務局長就任/4月九州支部ホームページリニューアル/6月支部・センター総会にて平成19年度より支部・センターの一本化決定/9月松尾事務局長が退任され北島孝則新事務局長就任/11月第26回地域産官学と技術士の合同セミナー(福岡)、第36回日韓技術士会議と様々な出来事・行事がございました。

今年は、技術士法制定50周年に当たる記念すべき年になります。支部では、九州技術士センターが廃止され、九州支部に一本化されます。この「技術士だより」もセンター廃止を機に内容の刷新を予定しています。支部ホームページと技術士だよりの両輪で会員の皆様に最新の情報をお伝えしていきたいと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。

(棚町)

発行: (株)日本技術士会九州支部

九州技術士センター

〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街7-1

(シック博多駅前ビル204)

九州支部: ☎(092)432-4441

FAX(092)432-4443

E-mail: engineer@joho-fukuoka.or.jp

九州支部ホームページ URL:

http://www.joho-fukuoka.or.jp/kigyo/engineer

センター: ☎/FAX(092)432-4443

印刷: (株)川島弘文社